

税関150周年に向けて



水際で守る 日本の未来

荒巻 英敏

ARAMAKI Hidetoshi

関税局税關調査室長
平成5年度入省

150年の歩みを確かめ、その先へ

毎年11月28日は「税関記念日」です。なぜこの日かというと、開国から間もない明治5年11月28日(1872年)に、開港毎に設置され外国との輸出入を司る機関が統一的に「税関」と呼称されたからなのです。そして、2022年11月28日で「税関」発足からちょうど150周年となります。

150周年という節目は、これまでの税関の歩みを振り返りつつ、税関が

- ・島国日本の水際の番人として、日本社会の安全・安心の確保にどのように貢献してきたのか
- ・輸出入関連手続を所管する機関として、貿易立国である日本の経済発展にどのように貢献してきたのか
- ・今後は、環境変化にどのように対応しつつ、使命を達成していくのか

組織の外に向けて積極的に情報発信していく絶好のチャンスと捉えています。

また、税関150周年を記念して実施予定の各種事業は、全国約1万人の日本税関職員が、より結束を強める機会にもなると考えています。

そうした意気込みで、税関調査室に150周年事業担当チームを立ち上げ、かもめプロジェクト(右ページ参照)の若手の力も加え、様々な企画の立案、全国の税関や官民の関係先との調整など、日々奮

闘しています。

かもめプロジェクトは好例ですが、若手職員を積極的に企画立案に関与させることは、関税局・税関の良い伝統の一つではないか、と感じています。私自身、若手だった昔(?)から、係員でも他府省との調整を任せられたり、係長でも組織を代表する立場で海外出張したり、様々な成長機会を与えられてきたという自覚があります。

150年の歴史を持つ「古い」組織ですが、水際を活動のフィールドとする税関は、国際・国内双方での経済情勢、社会情勢の変化に「フレッシュな」アタマで柔軟に対応していく必要があります。そのため、若手の声も積極的に聞き、関わらせる土壤があるのではないかと思っています。



税関HP
(150周年特設サイト)



かもめプロジェクトとは?



特集 税関150周年に向けて

税関150周年を盛り上げるべく、若手職員(係長、係員クラス)を中心に構成されたプロジェクトチームです。若手職員が自分たちのニーズなどに基づいた様々なアイデアを提案し、意見を出していくことで、より幅広い世代の方々に税関への興味を持つてもらえるような周年事業を企画・立案しています。

「かもめプロジェクト」という名称もチームのメンバーによって名づけされました。かもめは「税関の歌」の歌詞である「流れる雲よ舞うかもめ」の一節からとられており、150周年を迎えた税関が、これからも時代に併せて更なる発展を遂げられるように、という思いが込められています。

かもめプロジェクトの メンバーに話を聞きました



小林 諒

KOBAYASHI Ryo

関税局業務課通関係
令和2年度入省



どんな事業の計画に携わっていますか?

税関150周年を記念するにあたり、関税局・税関では様々な事業が実施・計画されています。その中で、私は税関150年の足跡を辿る「広報記念誌」の作成に携わっています。

明治5年に「税關」として発足してから今日に至るまで、税関がどのような歴史を歩んできたのか、その経緯を調べるとともに、記事の内容、デザイン、表現方法などをメンバー同士で意見を出し合ながら、この150周年という節目の年に、一人でも多くの方々に「税関」について知っていただけるよう、活発な議論を行っています。

大島 早貴子

OSHIMA Sakiko

関税局第二参事官室
(国際協力担当)国際調整係
令和3年度入省



かもめプロジェクトで活動するうえで心掛けていることはなんですか?

メンバーの意見をよく聞くことです。私は現在入省1年目ですが、サブグループのリーダーをさせていただき、150周年担当課室との調整やグループの意見のとりまとめを担っています。定期的に行われるサブグループの会議では、関税局や税関での多様な経験や個性にもとづいて、「今」の若手の意見が飛び交っています。これらの声をよく聞いて集約し、150年に1度の記念すべき節目に形として残せるよう、引き続き努めていきたいです。

庄子 愛弓

SHOJI Ayumi

関税局総務課企画係
令和2年度入省



かもめプロジェクトのやりがいはなんですか?

かもめプロジェクトに参加するなかで、やりがいを感じる瞬間は2つあります。

①それぞれのアイデアをチームで形にできた時 「どんなアイデアでも大歓迎」というアットホームな雰囲気のなか、150周年を盛り上げたいという共通の熱意から湧く力を合わせ、アイデアを実現できた時は、ひとくわ嬉しいです。

②通常業務の人間関係を超える繋がりが生まれた時 ももめプロジェクトという大きな舞台を通して、魅力的な方々と出会うことができ、楽しい輪が広がりました。そして、その輪は通常業務にも大いに活かされています。